

2016年度 湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書  
北米神経科学学会（Society for Neuroscience 2016）における研究発表  
政策・メディア研究科修士課程1年 上野 良揮

1. 国際学会大会概要

名称：Society for Neuroscience 2016  
期間：2016年11月12日~11月16日  
会場：San Diego Convention Center (San Diego, CA, USA)  
形式：ポスター発表

2. Society for Neuroscience 2016 での経験

アメリカ合衆国大統領選挙においてドナルド・トランプ氏が新たな大統領に選出されて3日も経たないうちに、私は研究発表のためにアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴへと飛び立った。

毎年アメリカで開催されているこの大会は、神経科学分野では最大規模のものであり、来場者は5日間で30000人を超える。そのため、国籍や研究分野など、様々なバックグラウンドを持った多くの研究者や大学院生と神経科学に関する研究のディスカッションをおこなうことが出来る。私は本大会で発表し、ディスカッションをおこなうことを目標に学部時代より研究に励んできたため、大学院修士課程1年生にして筆頭著者としてこの目標を実現することが出来た。

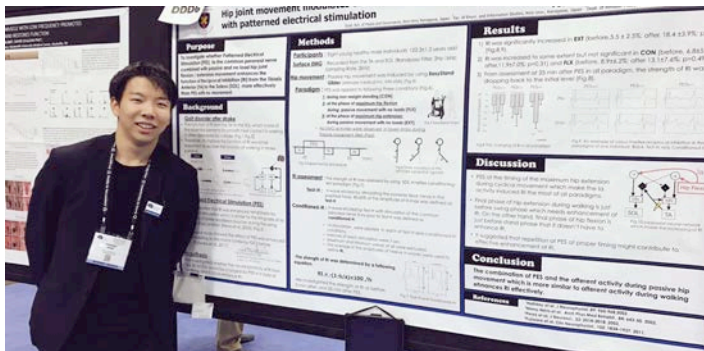
私の研究テーマは、前脛骨筋からヒラメ筋に対する相反性抑制機能が失われた脳卒中患者に対する新たな歩行リハビリテーション法の提唱を目的とした研究である。特定パターンの電気刺激と、免荷状態で受動的な股関節屈曲—伸展運動を組み合わせることで効果的に相反性抑制を増強させることが出来るというものだ。

私の発表は11月15日の午前中におこなわれた。私の研究分野についてなじみがある・ないに関わらず数多くの方が私の研究に興味を持ち発表を聞いて下さった。英語でのプレゼンテーションは初めてであったが、回数を重ねるうちに上達していくことを実感できたのもひとつの収穫だった。

5日間の大会期間中、私自身の発表以外にも世界中の研究者の様々な研究発表を聞くことができた。特に私のこれまでの研究、これからの研究と密接に関わ

りそうな発表について積極的に質問し、基礎的な実験手法から、結果や考察、そして社会的応用の可能性までディスカッションをおこなうことができた。

特筆すべきは、自分の研究のベースとなった論文の筆頭著者であるPittsburgh大学のPerez博士の発表を聞いたことである。残念ながら一緒に写真を撮ることはできなかったが、論文を引用した旨を伝えることができ、また彼女も親切にご自身の研究を発表してくださった。



上：ポスターと私  
左下：発表中の様子  
右下：会場入口

### 3. 今後の展望

今回の発表では自分の研究に対し、多くのコメントを研究者の方から頂くことができた。彼らのコメントを参考に、この研究の論文化や臨床応用へとつなげていきたいと考えている。そして来年も同じ場で新たな発表が出来るように今後も研究に励みたいと思う。

### 4. 謝辞

本活動において多大なるご支援を頂いた湘南藤沢学会に感謝申し上げます。